

南楼の望

盧

僕

国を去って三巴遠し

楼に登る万里の春

心を傷ましむ江上の客

是れ故郷の人ならず

【作者】盧 僕(生没年不詳)。河南省の下級官吏から集賢院学士に抜擢され、尚書省吏部員外郎(従六品上)になっていきますので、才能のあった人と

思われます。「国」は故郷のことで河南省臨漳県に生まれました。官途の途中、巴地(四川省)に左遷されたことがあったらしく、三巴は後漢末に巴地が巴・巴東・巴西にわけられたので三巴と言うのであつて、巴地と同じ意味です。詩題の「南楼」は巴地のどこかの町の城壁にあった南門の望楼で、そこからあたりを眺めたのでしよう。

【語釈】*三巴：四川省の重慶を含む東部一帯 *江上客：作者自身のこと

【通釈】国都長安を去つて、遙か三巴(四川)に来て。高殿に登つてみれば、見わたす限りの春である。悲しいことに、長江を船で行く旅人たちは、故郷の人たちではない。